



令和8年5月29日（金）川崎市立西丸子小学校

## 教育方針の転換期、実は変わらず大切なもの・・・

西丸子小学校 校長 吉村 あかね

5月21日より3日間、5年生は、川崎市恒例の宿泊学習、自然教室に行きました。担任達は、今年度が始まり、学級づくりを始めると同時にこの一大行事の準備にとりかかりました。5年生の児童の楽しみにしている様子が日に日に高まっていく様子も感じました。いざ当日。生憎の大雨スタートです。移動中のバスの中や就寝時間中は、ほぼ雨でした。ところがなんと、いざ活動をスタートさせようとする、雨がやむのです。5年生の気迫が、変わりやすい山の天気を味方につけたとしかいえません。見事全プログラムを晴れバージョンで決行させることができました。子ども達の様子は、普段の西丸子の子ども達の良さが大いにあらわれ、お世話になる様々なスタッフの皆さんにしっかり挨拶できたり、一つ一つのプログラムを友達と協力しながら心底楽しんだりする様子がうかがえました。また、セルフサービスの食事では、始めはサラダをほんの少ししかよそわない子が多かったのですが、高原野菜のおいしさに、回を重ねるごとに盛る量が増えていくのが印象的でした。収穫体験のおみやげのレタスを食べながら、各ご家庭では思い出話に花を咲かせたことでしょうか。私もこれまでに片手では収まらない回数川崎市八ヶ岳少年自然の家にお世話になりましたが、こんなに早い時期に行ったのは初めてです。初夏の山の花も堪能することができました。そして、今年度をもって、八ヶ岳での自然教室は終了です。思い出の詰まったこの施設に、西丸子の5年生と感謝の意を伝えることができました。

さて、文科省は次期学習指導要領に向けて、探究的な学びを推進することを1つの柱として掲げています。これまでも、子ども達の主体的・探究的な学びを深める必要性を掲げ、生活科、総合的な学習の時間という新しい教科が導入されたり、各教科の授業スタイルの改善を進めたりすることで、主体的な学び手を育て、生涯にわたり学び続けられる素地を育成することが求められてきました。しかし、変化の激しいこれからの時代に対応するために、与えられた課題を解決するだけでなく、自ら進んで課題を見つけ出し、解決しようとする児童の育成が求められています。そのために学校現場も、学校活動や授業改善にもっと教職員が注力できるよう働き方を改善することが急務とされています。教育委員会から各保護者宛てにも配信されたところですが、改革には保護者のご協力も欠かせません。さらに、社会の変化に対応するためには、地域の学校として、地域のお力をお借りするのが何よりであると考えます。本校はお陰様で様々な形で地域のお力をいただいております。今年度も、多摩川クラブや中本賢さんによる多摩川の学習、原さんやJAさんのご協力で行われる稲作活動、町探検

での地域のお店や町内会さんのご協力、また、水泳学習や運動会にかかわる近隣の皆様のご協力等々、多くの方との関りを通して、子ども達の成長を見守っていただいています。さらに身近で支えていただいているのが、コミュニティースクールの皆様、PTA 役員の皆様、そして、保護者の皆様です。保護者の皆様には、すでにミシン学習や交通安全教室等いくつかの学習でお力をお借りしています。たいへんありがたいことです。感謝申し上げます。今年度はさらに、参観いただける機会を見つけ、ご案内しようと思っています。子ども達の様子を見ていただき、主体的な学び手を作るために奮闘している教員と子ども達を応援していただけると助かります。公開の趣旨をご理解いただき、ご自宅に戻られた折には、たとえ見栄えは悪くとも、自分の力で課題を見つけたり、与えられた役割に向き合ったりしている姿勢を認めていただき、お声がけいただければありがたいです。

全川崎市の小学校では、教員の授業力を高めるため、各校で校内研究を進めています。昨年度までの2年間、本校は教科を国語に絞って、自ら進んで話したり聞いたりできる主体性を体系的、系統的に身につけるための研究を行ってきました。2年間かけて取り組んできた内容を、今年度は全教科の中で子ども達が使ってみる姿を期待しています。そして今年度は、探究的な学びを進めるための校内研究に取り組みます。1回目は、本校のコミュニティースクールの委員長を務めていただいている川島高之前 PTA 会長を講師としてお招きしました。コミュニティースクールメンバーの方々も、グループワークの助言役として駆けつけてくださいました。地域の方とコラボした校内研究のスタイルは前例がないとして、教育委員会教育政策室の方々が視察にみえました。講演の演題は、「学びのエンジンの火付け役に～自ら考え動く力を育む探究のススメ～」です。教師は、とにかく教えなければならないこと、教えたいことが先行してしまうものですが、「教える」から「自分で考えさせるコーチ役」になることで、これからの社会を生き抜く力を育てられることを、具体例多く、我々教員にも「教え込む」のではなく、考えさせ、グループで意見を出し合わせながらの、あっという間の1時間半でした。

まだ今年度はスタートしたばかりです。これからの教育活動に、子ども達の探究的な学びの姿が少しずつでもあらわれるよう、努めていきたいと思えます。始めは見栄えは落ちることも多々あると思えます。発表を伴う学習では、これまで教師も最終ゴールは見栄え（と言い切るには語弊がありますが）重視で子ども達を指導してきました。これからは、発表に至る過程こそ課題解決の能力を育てる機会ととらえ、どれだけ待てるようになるか、そこで、あきらめたり、がっかりしたりせず、失敗こそ次の学びの大切なステップとなるよう発想を転換していかなければなりません。

今後とも、地域の方々、保護者の方々には、新しい時代に合った教育の変化をご理解いただきつつ、引き続きご支援賜りますようお願いいたします。